

平成26年8月29日

第125号

関東の森林から



国民の森林・国有林

関東森林管理局

前橋市岩神町4-16-25
TEL.027-210-1158

<http://www.rinyamaff.go.jp/kanto/>



戸倉山復旧治山工事 戸倉山国有林（福島県天栄村）

ロッククライミングマシーンによる法切工

（撮影者：福島森林管理署白河支署 業務グループ 治山技術官）

森林除染事業地における放射線モニタリングについて

森林放射性物質汚染対策センター

私と国有林

「猪苗代スキー場運営協議会の歴史と未来」

猪苗代町商工観光課（猪苗代スキー場運営協議会事務局）

森林除染事業地における

放射線モニタリングについて

森林放射性物質汚染対策センター

森林放射性物質汚染対策センターは、平成24年4月に開設されて以来、市町村が策定した除染実施計画に沿って、生活圏から概ね20㍍の範囲にある国有林の除染に取り組んでいます。森林の除染は、世界でも例のない初めての取組であり、効果的な除染の方法や実施範囲については、林野庁等が様々な試験や実証により明らかにし、その結果を踏まえて環境省において策定した「除染関係ガイドライン」により実施しています。

林野庁においては、これまでに福島県内の川内村、広野町及び飯舘村において実証事業や各種モニタリングを行っており、得られた成果については林野庁のホームページで公表しています。

当センターにおいては、開設後2年で11市町村内の国有林（17・25㍍）において森林除染を行っており、実際の除染の事業地における放射線モニタリング（以下、「モニタリング」という。）にも取り組んでいます。本号では、その中からいくつかの事例を紹介いたします。

モニタリングの方法

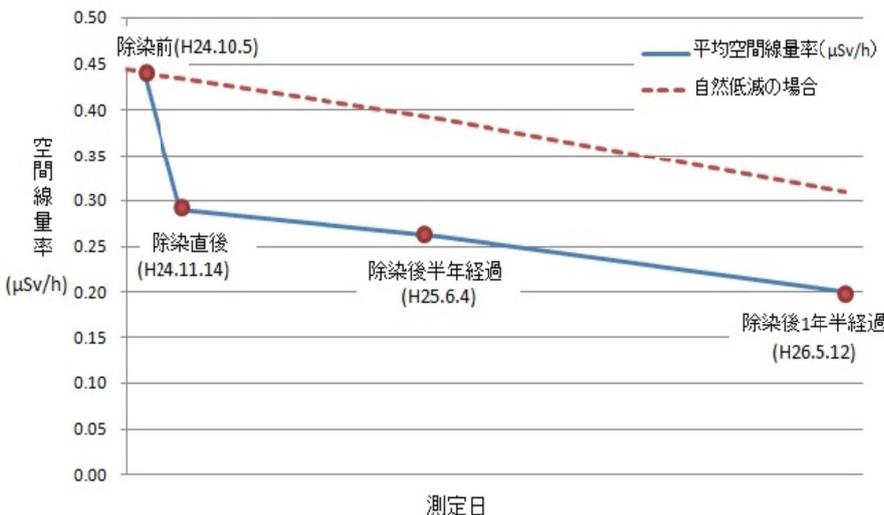
除染を進めていくには、放射性物質



№	名称 (単位)	測定機器	測っているもの	除染事業の際の使用目的
①	空間線量率 ($\mu\text{Sv/h}$)	NaI シンチレーション式サーベイメータ 	空間の放射線量	住民の外部被ばく量がどのくらい低減したかを見る
②	表面線量率 ($\mu\text{Sv/h}$)		物質の表面の放射線量	除染でどのくらい放射性物質が取り除かれたかを見る
③	表面汚染密度 (cpm)	GM管サーベイメータ 	物質の表面の放射性物質量	

(図1) 放射性物質の調査測定方法

モニタリングの内容と結果(1)福島県二本松市長坂国有林(少年自然の家隣接国有林)平成24年9月11日除染実施後及び一定期間経過後の空間線量

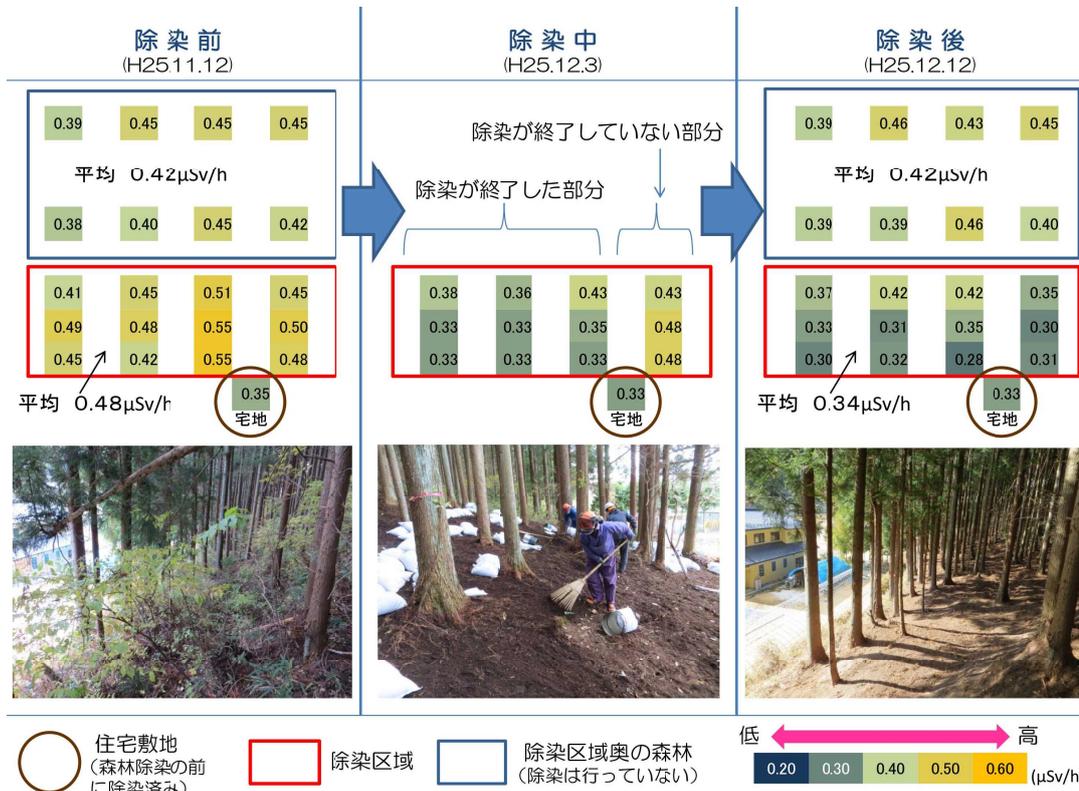


(図2) 除染実施前後及びその後の空間線量率の変化

特徴については図1に示すとおりです。

質による汚染状況を正確に把握することが必要です。放射性物質には色も匂いもなく、人間の五感では感じることはできませんが、放射線は専用の機器により測定することが可能です。「除染関係ガイドライン」において示されている測定方法には、①空間線量率、②表面線量率、③表面汚染密度があり、それぞれの目的、特徴については図1に示すとおりです。

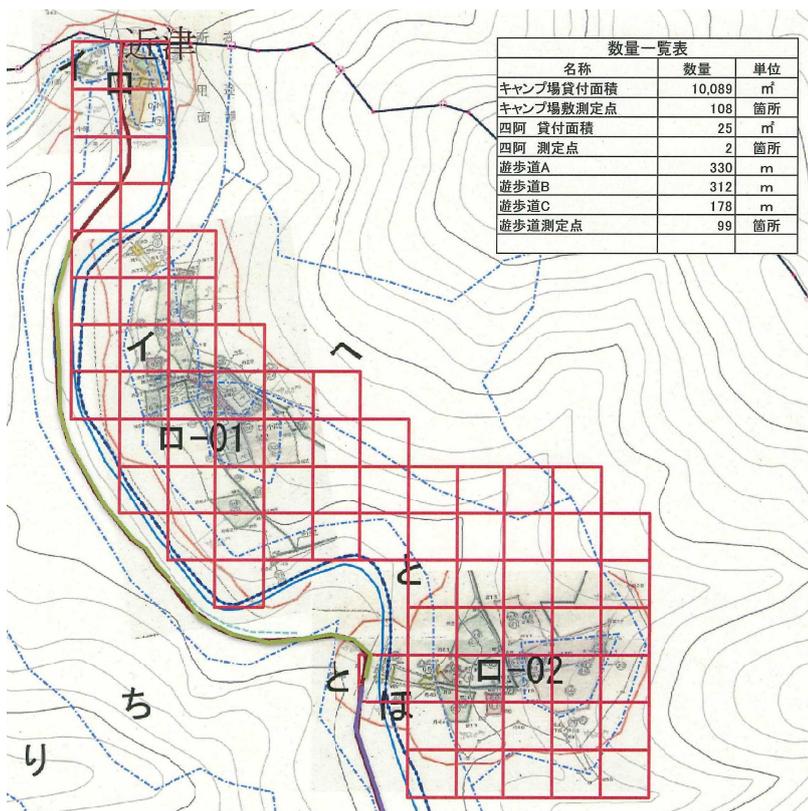
率を測定しています。除染前に毎時0・44マイクロシーベルト(各測定の平均値、以下同じ)であったものが、除染後には毎時0・29マイクロシーベルトに下がりました(低減率34%)。その後の線量の変化については図2に示すとおり、時間の経過とともにゆるやかに減少していることが確認できました。



(図3) 除染実施前中後の空間線量率の変化

確認するにも除染作業が完了した。除染作業の結果、除染区域の空間線量率が0.35μSv/h以下に低下した。除染作業の結果、除染区域の空間線量率が0.35μSv/h以下に低下した。除染作業の結果、除染区域の空間線量率が0.35μSv/h以下に低下した。

低減率17%の平均値が、除染作業の結果、除染区域の空間線量率が0.35μSv/h以下に低下した。除染作業の結果、除染区域の空間線量率が0.35μSv/h以下に低下した。除染作業の結果、除染区域の空間線量率が0.35μSv/h以下に低下した。



(図4) スポーツ林内に設定したメッシュ図

(2) 福島県白河市隈戸国国有林 (住宅地隣接国有林) [平成25年11月~平成26年2月除染実施]

ここでは、除染区域に加え、住宅敷地内及び除染を実施していない

隣接地も含めて測定しました。除染実施前後の空間線量率を測定した結果、平均で40%の低減となりましたが、林内中央部の低減率が最も高く、除染していない区域に近づくほど低くなる傾向が明らかになりました。

(3) 福島県棚倉町桧沢国国有林 (山本不動森林スポーツ林内) [平成25年6月~平成25年10月除染実施]

ここでは、棚倉町が管理するキャンプ場と利用者が日常的に立ち入る森林として周辺国有林を含めて除染することとし、除染範囲を決定するため区域内に20mのメッシュの格子点を設定して空間線量率、表面線量率を測定し、汚染状況を調査しました。

今後の取組

当センターにおいては、引き続き地域や関係機関と連携して森林除染を進めるとともに、必要に応じてモニタリングを継続して実施し、除染事業に活用していくこととしています。

**農林水産行政優良職員等表彰において東日本大震災
海岸防災林復旧対策チーム（磐城森林管理署原町治
山事業所が農林水産大臣賞を受賞**

総務企画部総務課

農林水産行政に顕著な業績を挙げた職員又は団体等を幅広く表彰し、職員の士気の高揚を図るとともに、業務効率及び行政サービスの向上を図ることを目的として実施している優良職員等表彰において、東日本大震災海岸防災林復旧対策チーム（磐城森林管理署原町治山事業所）と東北農政局仙台東等災害復旧事業チームが農林水産大臣賞として合同受賞され、関東局では平成26年7月29日及び平成26年8月1日に須藤局長から受賞者の皆様に表彰状と副賞の伝達が行われました。

磐城森林管理署原町治山事業所では、東日本大震災の際に発生した津波により被害を受けた相馬市松川浦をはじめとする福島県北部の海岸防災林（国有林約60ha、民有林約70ha）の復旧に当たり今までに経験したことのない規模の事業に対し鋭意取り組みを行うとともに、復旧事業の取り組みや得られた知見などについて関係機関や地域の住民の皆様などに積極的に情報を発信しているところ

このことは、国有林野事業の一般会計化の大きな柱である「民有林支援、国有林、民有林一体となった森林林業の推進」に適うものと認められ、これらの取り組みが海岸防災林の復旧事業の推進に尽力されているものと高く評価され農林水産大臣賞の受賞となったものです。

なお、東日本大震災海岸防災林復旧対策チームには、磐城森林管理署原町治山事業所のほか、東北森林管理局宮城北部森林管理署海岸防災林復旧対策事務所及び仙台森林管理署海岸防災林復旧対策室が含まれています。

受賞者

- 磐城森林管理署原町治山事業所
- ・佐藤和久災害対策専門官（現群馬森林管理署勤務）

- ・岡川善尚治山技術官（現茨城森林管理署勤務）



岡川善尚さん



佐藤和久さん

**今月の表紙
「戸倉山復旧治山工事」**

写真は、福島県岩瀬郡天栄村の戸倉山国有林で、東北地方太平洋沖地震とその後降雨により崩壊し、平成24年度より復旧治山工事に着手している箇所です。

当該箇所については、崩壊の規模が大きく、急斜面でもありロッククライミングマシンによる法切工を行っています。

今後も急斜面での施工が続くうえ、福島県内では復興・除染事業により、労務等が不足し、工事入札の下落等が続いていますが、平成30年度までの期間内に完成出来るように取り組んでいきます。



「私と国有林 猪苗代スキー場運営協議会の歴史と未来」

猪苗代町商工観光課（猪苗代スキー場運営協議会事務局）

猪苗代町は、福島県のほぼ中央に位置する猪苗代湖の北岸に面し、秀峰会津磐梯山をはじめとする吾妻、安達太良、川桁山系の山々に囲まれた山と湖が織りなす雄大で美しい自然に包まれた町です。

地勢は東西に17^{キロメートル}、南北に27^{キロメートル}で、395平方^{キロメートル}に及ぶ広大な面積を有しており、うち157平方^{キロメートル}が磐梯朝日国立公園に指定されています。

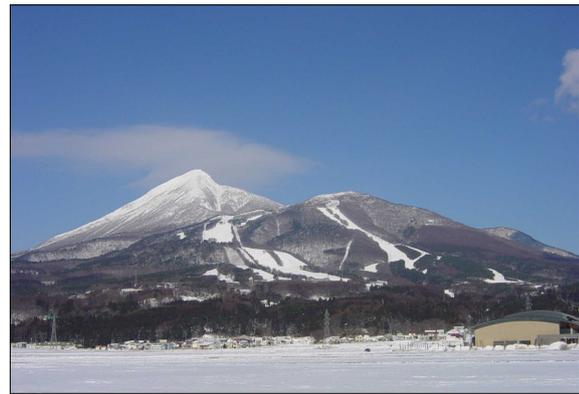
春から秋にかけては170万人の登山者が、また、冬季は50万人弱のスキー客が訪れる「農業と観光」のまちです。

猪苗代町のスキーの歴史は古く、昭和23年に猪苗代スキー場が県営スキー場として運営したのが始まりでした。昭和34年にはゲレンデとリフトが整備され、本格的にスキー場としてオープンしました。現在、猪苗代スキー場は108^{ヘクタール}の事業面積を有し町内では最大のスキー場となっています。

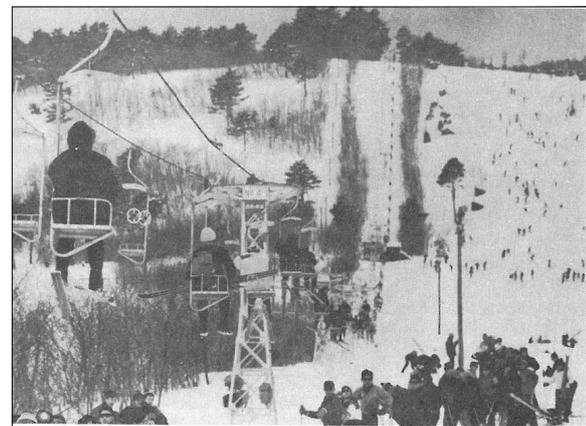
さて、猪苗代スキー場運営協議会は昭和36年10月に猪苗代スキー場及び国有林野の保護に協力することを目的に設立されました。

1987年の人気映画「私をスキーに連れてって」がスキーブームに火を付け、昭和の終わりから平成の初めにかけては、まさに日本中がスキー人気一色でした。

その頃、当協議会ではスキー場事業者をはじめホテルや民宿、タクシー事業者や小売店など多くの事業者が協議会に加入し、テレビCMの放送や猪苗代スキー場のロータリーへ管理員を配置するなど誘客宣伝や駐車場対策に追われ、また、ウインターフェスティバルなども開催され、ス



磐梯山と猪苗代スキー場



昭和39年第13回全国高校スキー大会を控えた猪苗代スキー場



2009年FISフリースタイルスキー世界選手権猪苗代大会スキークロス競技

スキー場は華々しい賑わいを見せていました。

しかし、バブル崩壊後はスキー人気の低迷や、また、スキー場が乱立したことも原因し猪苗代スキー場への入込みも減少し、これに伴い平成14年度以降は当協議会の活動も縮小することとなりました。

そのため、現在では国有林野内許可申請に係る審査及び同意書の交付と協議会参画団体との連絡調整等が主な活動となりました。

ところが、昨年度の協議会総会で「スキー場の活性化や地域振興につながる事業を実施してはどうか」という意見が出され、出席者からも前向きに検討しようということになり、しばらく止まっていた時計の針が、また、動きはじめることになりました。

た。

猪苗代スキー場運営協議会が設立され半世紀が経過しました。この間、猪苗代スキー場はリゾート構想に沸いた時代、バブル崩壊、2009年フリースタイル世界選手権大会の開催、そして、東日本大震災と原発事故による風評被害など、いろいろな時代を経験しました。

現在、震災から3年が経過し、徐々にではありますがスキー場に活気も戻ってきました。

当協議会は国有林と連携し、これからも猪苗代スキー場とともに歴史を刻み、スキー場の活性化のため、永遠にその使命を果たしていく考えです。

森づくりの最前線

下越森林管理署 三川森林事務所 森林官 富樫 昇



阿賀町側からの五頭連峰



中の沢森林公園から見た菱ヶ岳

私が勤務している三川森林事務所は、新潟県の北東部に位置し福島県と接する東蒲原郡阿賀町に所在し、国有林約6700鈔を管理しています。管内には、「三川六名山」と呼ばれる五頭山(ごずさん)、菱ヶ岳(ひじがたけ)、宝珠山(ほうしゅさん)、日倉山(ひぐらやま)、日本平山(にほんだいらさん)、馬ノ髪山(うまのかみやま)があります。特に阿賀町の五頭山は、阿賀野市側の裏になることから「裏五頭」と言われています。表側よりも雪が深く、春の訪れも遅いのが特徴です。登山口は中ノ沢渓谷森林公園からとなっていて、美しいブナ林や天然スギが見られ、登山愛好家の中で人気があります。

名所としては「將軍杉」があります。幹周り約19・31鈔、高さ38鈔のスギの巨木で、幹周りはスギ単木としては日本一を誇っています。推定樹齢は1400年で、国の天然記念物に指定され、見る者を圧倒します。「將軍杉」の名前の由来は、平安時代の將軍、平維茂がこの地に晩年を過ごしたという逸話からつけられています。また、管内にある三川オートキャンプ場は、カワセミや溪谷に住む野鳥の観察ができるなど豊かな自然とふれ合うことや、新谷川の清流で釣りを楽しむことができます。夏は、キャンプエリアでバーベキューをする家族連れで賑わっています。

新潟県でも比較的雪の少ない下越地方ですが、管内は多い年で積雪2鈔を超えるため、事業期間が短く境界管理、林道等の点検、森林の現況調査等は計画的に業務を進めるように心がけています。管内には、スギの人工林が多く、かつてから「優良天然スギ」の産地だと聞いています。管内の天スギ伐採後の大きな根株を見ると、このような立派なスギを作ること目標に、的確な施策が実施できるように山の



將軍杉



將軍杉

巡視をしています。今年も、今まで目撃されなかった人里近くでも、ツキノワグマが出没するようになりました。それに加え、クマによるスギの剥皮も増えていきます。クマの被害に遭わないよう鈴の携行や爆竹を鳴らす、複数で入山するなどの対策を心がけています。森林事務所の近所には、退職した元職員が多く住んでいます。調査に行くときも臨時作業員としてお願いし、一緒に山を回る時は、管内を熟知しており大変心強く感じています。地元の方々も普段から意見交換しながら、国有林の地域に開けた窓口として機能することを大切にしていきたいと考えています。



三川オートキャンプ場

管内のいちおしスポット



阿武隈川源流

■ 福島森林管理署白河支署 <http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/sirakawa/index.html>
 〒961-0074 福島県白河市字郭内128-1
 TEL:0248(23)3135(代表) FAX:0248(23)3137

阿武隈川は、福島県西白川郡西郷村旭岳にその源を発し、大滝根川、荒川、摺上川等の支川を合わせて、福島県中通り地方を北流し、阿武隈川渓谷の狭窄部を経て宮城県に入り、さらに白石川等の支川を合わせて太平洋に注ぐ、幹川延長239km、流域面積5,400km²の一級河川です。



西の郷遊歩道「西郷瀨」の流れ

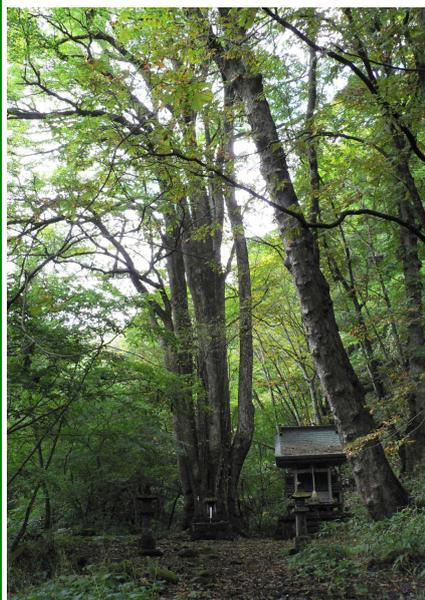
阿武隈川は東北地方では水質の悪い水系として言われていますが、その源流部は豊かな自然林を背景に水量豊富な清流となっています。

阿武隈川源流部である西郷村では、豊かな自然を多くの人たちに親しんで頂こうと、阿武隈川沿いに、「西の郷遊歩道(3.6km)」と「新甲子遊歩道(2.2km)」の二つの遊歩道を整備しています。



新甲子遊歩道霞ヶ谷の流れ

遊歩道を歩きながらの森林浴と阿武隈川源流の渓流を望みながらの、春の新緑、秋の紅葉はもちろん、バードウォッチングを楽しむことができます。



剣桂(西郷村)

○西の郷遊歩道【www.vill.nishigo.fukushima.jp/view.rbz?cd=305】

全長3.6km、歩いて約2時間のコースで、瀨の大滝や熊のすべり台などの滝、四季の森や冒険の森といったポイントがあり、水と緑に囲まれた自然いっぱいの遊歩道です。

遊歩道となっている「みのり隧道」は、明治44(1911)年から昭和41(1966)年まで動いていた追原第一発電所(水力発電)の取水堰に行くために掘られたものです。

○新甲子遊歩道【www.vill.nishigo.fukushima.jp/view.rbz?cd=304】

新甲子温泉郷から全長2.2km、歩いて約1時間30分の遊歩道で、ブナ、ミズナラ、トチなどを中心とした原生的な森林の中を流れる阿武隈川の渓流をのぞみ、四季折々の変化にあふれる魅力いっぱいの遊歩道です。

近くには、白河藩主で寛政の改革を行った松平定信に関するいわれもあり、不思議な力をもつ木として信仰を集める、樹齢300年を超える「剣桂(森の巨人たち100選)」もあります。

(福島森林管理署白河支署 広報広聴連絡官 増子誠一)



編集発行所
 FAX(027)2301393
 TEL(027)2101158
 総務課
 関東森林管理局